

山家悠紀夫『日本経済 30 年史 バブルからアベノミクスまで』岩波新書 2019 年
第 8 章 アベノミクス、超金融緩和と 3 度目の「構造改革」(2013～19 年)

問題提起

P278L5 に「うまくいなくて当然、これでうまくいき成果が収められたらその方が不思議、というのがアベノミクスなのであった。」とあり、P278L7 に「ただし、それにもかかわらず、安倍内閣は、アベノミクスの明らかな失敗を失敗と認めず、手を替え品を替え、なおもアベノミクスを継続していくつもりのようなのである。究極の目標はただ 1 つ、『世界で 1 番企業が活動しやすい国』にすることであり、それが実現するまでは、ということか」とある。なぜ安倍内閣は国民に対して無頓着な政策を取り続け、アベノミクスは失敗していたのにも関わらず、「世界で 1 番企業が活動しやすい国」にすることにこだわったのだろうか。